



播磨 ミステリーハント

播磨町の歴史や偉人の「?」と「!」について、秘められたトピックスなども交えながら紹介します。

文責 播磨町郷土資料館 館長 宮柳靖
☎079(435)5000

別府鉄道の制服一式▶

Mystery.10

節目の年に歴史をひも解く!!

昭和39(1964)年、東海道新幹線が開業し、今年で50周年となります。東京オリンピックの年に走り出した新幹線は、東京～新大阪間を「ひかり」で4時間(翌年3時間10分)で結びました。昭和42年から工事が始まった山陽新幹線は、播磨中学校のすぐ南を走っていますが、当時町長だった田中松太郎さんによると、事前に計画を知らされず新聞発表されたので、「どこを通るのか」と役場に問い合わせが殺到し、その対応に苦慮したそうです。

また、昭和49(1974)年には、「播磨大中国古代の村(大中遺跡公園)」が開園し、40周年を迎えます。当時、大中遺跡の出土品は分散保管されていたので、公園整備によりこれを一堂に集めて展示する施設を造ってはどうかという世論が一気に沸き起こりました。「国か県がつくるべきだ」「町単独でもやるべきだ」などといった議論が百出しました。このような中、遺跡のすぐ南を別府鉄道が走っていたので建設場所は大きな課題でした。

10年近く経った昭和58年、国鉄(現JR)が土山駅での貨物取り扱いを止めたので、別府鉄道も翌年鉄道の営業を取り止めました。最終日となった昭和59年1月31日は、播磨町では珍しく大雪となり、道路は大混乱しましたが、お別れ列車までスムーズに運行がなされ、多くの人に惜しまれつつ63年の歴史に幕をおろ



しました。このことにより、遺跡南側の整備が可能となり、3月には発掘調査が行われました。同年12月には、資料館建設に先立ち、別府鉄道から機関車と客車が寄贈され、現在の場所に設置されました。廃線から今年で30年、平成のヒコ星誕生(小惑星にHecoと命名)が縁となり、別府鉄道に勤務されていた故中川吉郎さん(加古川市尾上町)と巡り合い、新品の制服上下とワイシャツ・ネクタイを寄贈いただきました(写真参照)。

さらに、今年、ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)新聞発行150周年にあたり、秘蔵品の展示やヒコの文化財ウォークなど多彩な催しを計画しています。また、少し気が早いのですが、来年は資料館開館30周年を迎えます。資料館の下には古墳時代中期のカマドのある竪穴住居跡が眠っています。今年も、弥生語が聞ける歴史のロマンあふれる郷土資料館にお越しください。

播磨町のホームページ <http://www.town.harima.lg.jp>
Eメール kikaku@town.harima.lg.jp



町の人口 12月1日現在 住民基本台帳人口+外国籍人口。()は前年比。
34,818人(+36人) 男…17,085人(+23人) 世帯数…14,286世帯(+24世帯)
女…17,733人(+13人)